








えいぞうとう 映像等	せりふ 台詞・ナレーション
<p>かみしばいし <紙芝居師></p>	<p>いま かみしばい はじ 「さあ、今から紙芝居が始まりますよ！ みんな、集まって～！」</p>
<p>かみしばい <紙芝居タイトル></p> 	<p>きょう はなし 「今日のお話は 『たけしくんがラーメンをすきになったわけ』 さてさて、どんなお話かな～？」</p>
<p>えいぞう ◆イメージ映像◆ まちい ひとたち ・町行く人達 こうえん くつろ ひとたち ・公園で寛ぐ人達</p>	<p>へいせい ねん がつ にち しょうがいしゃきまつかいしょうほう しこう 平成28年4月1日「障害者差別解消法」が施行されました。 これはしょうがい りゆう さべつ かいしょう これは障害を理由とする差別を解消していくことによって、 しょうがい しょうがい わ へだ 障害がある人もない人も、分け隔てられることなく おたが たが じんかく こせい そんちよう あ お互いに人格と個性を尊重し合いながら、 ともに生きる社会をつくることを目指して制定されたものです。 こんかい しせい かみしばい はなし とお 今回の「まるごと市政」は、紙芝居のお話を通して、 このあた しょうりつ かい かんが この新しい法律について、一緒に考えていきましょう。</p>
<p>かみしばいし <紙芝居師></p>	<p>「では、はじまり、はじまり」</p>
<p>かみしばい <紙芝居①></p> 	<p>たけしくんはハンバーグがとても好きでした。 たけしくんは10さい しょうがっこう ねんせい たけしくんは10才。小学校の4年生です。 たけしくんはうまれたとき たけしくんは生まれた時から「しょうがい」があって、 じぶん て あし おも どお うご 自分の手や足を思い通りに動かすことができません。 いつもねているしせい くるま の いつも寝ている姿勢の車イスに乗っています。</p>
<p>かみしばい <紙芝居②></p> 	<p>ある ねがえ じぶん 歩いたりするのはもちろん、寝返りなんかも自分で できないのでお母さん達に手伝ってもらっています。 ごはんをた べたり、トイレをするのもおなじです。 なに だれ てつだ 何をするのも誰かに手伝ってもらわないといけません。 こえ だ せつ じぶん きもち ことば 声は出せても、自分の気持ちを言葉にして、 はな 話したりすることはできません。</p>




まるごと市政「障害者差別解消法」
台詞・ナレーション

<p>かみしばいし ＜紙芝居師＞</p>	<p>「たけしくんはみんなとおなじ<small>しょうがくせい</small>小学生なんだよね。 けど、たけしくん、いろいろ大変<small>たいへん</small>なんだよね。 それでもね、悲<small>かな</small>しかったり、楽<small>たの</small>しかったり、 うれしかったりする心<small>こころ</small>はみんなといっしょだよ。 あたりまえだよね」</p> <p>「ここからは、そんなたけしくんの心<small>こころ</small>の声<small>こえ</small>で お話し<small>はなし</small>を進<small>すす</small>めていくね」</p>
<p>かみしばい ＜紙芝居③＞</p> 	<p>ぼくは月<small>つき</small>に2回、 西宮<small>にしのみや</small>にあるこどものためのセンターへ行<small>い</small>って、 訓練<small>くんれん</small>やりハビリというプログラムに参<small>さん</small>加<small>か</small>しています。</p> <p>からだの<small>か</small>たが変<small>か</small>わってしまったり、 あちこちがもつと動<small>うご</small>かなくなったりしないように、 お母<small>かあ</small>さんと特別<small>とくべつ</small>にそこに通<small>かよ</small>っています。</p>
<p>かみしばい ＜紙芝居④＞</p> 	<p>ぼくは、このセンターに行<small>い</small>った帰<small>かえ</small>りに、 家の近<small>いそ</small>くにあるレストランで、 大好きなハンバーグをお昼<small>ひる</small>ごはん<small>た</small>に食べるのが とても楽<small>たの</small>しみでした。</p>
<p>かみしばいし ＜紙芝居師＞</p>	<p>「なぜ、たけしくんは、ハンバーグが大好き<small>だいす</small>なのかな？」</p>
<p>かみしばい ＜紙芝居④＞</p> 	<p>ぼくは口<small>くち</small>をうまく開<small>あ</small>けることができず、 食<small>た</small>べ物<small>もの</small>をうまく噛<small>か</small>むこともできません。 飲<small>の</small>み込<small>こ</small>んだりするのも、あまりうまくできません。</p> <p>だからお肉<small>にく</small>が粉<small>こな</small>々<small>な</small>になっていて、 飲<small>の</small>み込<small>こ</small>みやすい固<small>かた</small>まりになっているハンバーグは、 とても食<small>た</small>べやすいのです。</p> <p>このレストランに行<small>い</small>けるようになったのは、 何段<small>なんだん</small>かの階<small>かい</small>段<small>だん</small>で高<small>たか</small>くなっていたレストランの入口<small>いりぐち</small>に、 スロープがついたからです。</p>




<p>◆2つの差別類型図◆</p> <p>◆イメージ映像◆ ・階段・段差・手動ドア など</p> <p>◆イメージ映像◆ ・スロープ ・タブレット、ペンと紙</p>	<p>障害者差別解消法では、障害を理由とする差別を2つの類型に整理しています。</p> <p>そのひとつが、「合理的配慮の不提供」です。</p> <p>社会の中には、障害のある人の生活に影響を及ぼすバリアがたくさん存在しています。</p> <p>この法律では、役所や会社、お店などの事業者に対して、障害のある人からバリアを取り除くために、何らかの対応を必要としているという意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応するよう求めています。</p> <p>例えば、階段にスロープを併設したり、言葉が話せない人とのコミュニケーションを図るために、タブレット端末を使う、筆談をする、というようなことがあげられます。</p>
<p><紙芝居師></p>	<p>「レストランにスロープができたことで、お出かけ先でも、大好きなハンバーグを食べられるようになった、たけしくん。</p> <p>その日も、ハンバーグを楽しみにして、センターのプログラムに参加したんです。</p> <p>ところが・・・」</p>
<p><紙芝居⑤></p> 	<p>その日も、いつものようにレストランのスロープをめざしていきました。</p> <p>しかし、どうしたことかこの日は、スロープの入口に、たくさんの自転車やバイクが停めてあって、ぼくの車いすは通ることができませんでした。</p> <p>お母さんは、 「今日は仕方ないね」と言って引き返してしまいました。</p> <p>せっかくのぼくの、わくわくした気持ちが、すっかりしずみこんでいきました。</p> <p>なんだかみんなに追い出されたみたいな気持ちになってとってとっても悲しくなりました。</p>
<p><紙芝居師></p>	<p>「スロープの意味がないよね。みんなも気をつけようね。みんなが気をつけることが大切なんだよ」</p>



<p>かみしばい ＜紙芝居⑥＞</p> 	<p>そんな^{きもち}が^{てんさま}にお天^{つた}道様に伝わったのか、 ぼくの^{かお}顔に、^{あまつぶ}ぽたぽたと雨粒^おが^{はじ}落ち始めました。 さあたいへん！^{くも}雲は^み見る^み見る^{あつ}厚くなっています。 とりあえず^{ちか}近くの^や屋根^ねのある^{あま}ところで^{やど}雨宿りをしました。 すると^め目の^{まえ}前に^やラーメン屋^きがある^きことに^き気づいた^ののです。</p> <p>いりぐち^{とうてん}入口^{じまん}には「^{かんばん}当店自慢^のラーメン」という^{かんばん}看板と、 「^{ひる}お昼^{えいぎょう}の^じ営業^はは14時^{まで}まで」という^{らだ}札^でが出ています。 ^{へいてん}閉店^{まで}まで、^{じかん}あまり^が時間^がありません。</p>
<p>かみしばいし ＜紙芝居師＞</p>	<p>^{かあ}お母^{まよ}さんは、^{どう}どうしよう^かかと^{まよ}迷^いっている^{よう}ようでした。 でも、^{あま}雨脚^{あし}が^{つよ}強^{くな}って^ききた^{ので}ので、 ^{おも}思い^き切って^やラーメン屋^との^あ戸^を開^けた^ののです。</p>
<p>かみしばい ＜紙芝居⑦＞</p> 	<p>すると、^{くるま}ぼくの^き車^{いす}イスに^き気づいた^らラーメン屋^のおじ^{さん}さんが、「^いいら^っしゃ^ませ」と^{おお}大^{こえ}声^だを出^ししながら、 ^{おく}奥^{ちか}から^よ近^寄って^ききた^ののです。</p> <p>^{すこ}少し^{だん}段^さ差^がある^{いり}入口^{ぐち}の^とところ^ままで^く来^{ると}ると、 「^すすい^ません^なあ。^くくそ、^{この}この^{だん}段^さ差^めめ」と^い言^って、 ^{くる}車^まイス^の前^{ぜん}輪^{りん}を^{すこ}少し^も持^あち^あげ^てく^れま^した^のです。</p>
<p>かみしばい ＜紙芝居⑧＞</p> 	<p>^{みせ}お店^はは^{だい}だい^ぶ混^んで^いま^した^が、 ^{おお}おじ^{こえ}さんが^{おお}大^{こえ}声^で「^{どう}ど^うぞ、^どう^ぞ」^いい^うの^で、 ^{さぎ}作業^{よう}服^{ふく}姿^がの^{にい}お兄^{さん}さんが、 ^ま真^{なか}ん^{せき}中^あの^う席^をを^あけ^てカ^{ウン}タ^ーに^{うつ}移^って^くれ^まし^た。 ^おおじ^{さん}は「^{どう}ど^うも、^どう^も」^{じょう}と^{きげん}上^機嫌^です。</p> <p>^{まわ}周^みり^をを^み渡^すと、^{せき}席^をを^{ゆず}譲^って^くれ^たお^{にい}兄^{さん}も、 サ^ラリ^ーマ^ンの^おおじ^{さん}も、^おおじ^いさん^もお^おば^あさん^も、 み^んな^おい^しそ^うに^らー^めん^をを^すず^って^いま^す。 ぼ^くや^おお^{かあ}母^{さん}を^じろ^じろ^と見^たり^する^人は^いま^せん。</p>
<p>かみしばいし ＜紙芝居師＞</p>	<p>しばらく^すと、 ^おおじ^{さん}は^{みず}水^をを^もっ^てき^てテ^ーブ^ルに^お置^き、 「^いら^っしゃ^いま^せ。うちの^{みせ}店^はは^はじ^めて^です^よね。 当^{とう}店^{てん}自^じ慢^{まん}の^らー^めん^でで^よろ^しい^でし^{ょう}か」と ぼ^くの^め目^をを^みて^はな^かし^かけ^たの^です。</p>
<p>◆ さべつるいけいず 2つの差別類型図 ◆</p>	<p>しょうがいしやさべつかいしょうほう 障^{しょう}害^{がい}者^{しや}差^さ別^{べつ}解^{かい}消^{しょう}法^{ほう}の²2つの^{さべつるいけい}差別^{るいけい}類^{けい}型^{けい}。 もう^ふひ^とつ^つは「^ふ不^{たう}当^{たう}な^{さべつ}差^さ別^{べつ}的^{てき}取^と扱^あい」^です。</p>

<p>◆イメージ映像◆ <small>えいぞう</small> <small>くるまいすきよひ</small> ・車椅子拒否</p> <p>◆イメージ映像◆ <small>うけつけ</small> ・受付カウンター <small>きよひ</small> ・拒否する手つき</p>	<p>この法律では、役所や会社、お店などの事業者が障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由とした差別をすることを禁止しています。</p> <p>例えば、障害を理由に受付の対応を拒否すること、保護者や介助者が一緒にいないとして、入店を拒否すること、本人を無視して介助者や付き添いの人だけに話かける、というようなことが挙げられます。</p> <p>また正当な理由があると判断した場合、障害のある人に、その理由を説明し、理解を得るように努めることが必要です。</p>
<p>◆イメージ映像◆ <small>にしのみやしやくしよがいかん</small> ・西宮市役所外観</p> <p>◆イメージ映像◆ <small>うけつけ</small> ・受付カウンター</p> <p>◆イメージ映像◆ <small>まちいひとたち</small> ・街行く人達</p> <p>◆イメージ映像◆ <small>はす</small> ・マスクを外す <small>くるまかいじよ</small> ・車いす介助</p> <p>◆イメージ映像◆ <small>くるまだんさ</small> ・車いす段差</p> <p>◆イメージ映像◆ <small>ないかくふほつこう</small> ・パンフレット(内閣府発行)</p> <p>◆イメージ映像◆ <small>かいぎようす</small> ・会議の様子</p>	<p>西宮市では、障害者差別解消法に基づき、事務・事業の実施にあたり、障害を理由とする差別を行わないよう、職員が適切に対応するための基本的事項を定めました。</p> <p>また障害者基本法に基づく障害者計画として、西宮市障害福祉推進計画を策定しました。</p> <p>この計画では、「ともに生き、ともに支えあう、共生のまち西宮」をまちの将来像として掲げ、障害のある人もない人も、全ての人々が互いに人格と個性を尊重し合いながら、住み慣れた地域で安心して暮らせる“共生のまちづくり”を進めていきます。</p> <p>まず合理的配慮として、聴覚障害のある方に対して、マスクを外して話をしたり、車いすを使用している方が、階段や段差で困っている場合には、移動をサポートするなど、できる範囲から取り組んでいます。</p> <p>障害差別が、障害に対する誤解や理解不足などによって生じていることに着目し、2つの差別類型に関する正しい理解の広報・啓発を進めるために、障害者差別解消支援地域協議会を設置しました。</p> <p>地域の関係者が集まって、どうすれば地域から障害差別をなくすことができるかなどについて協議を進めています。</p>

<p>かみしばいし <紙芝居師></p>	<p>「ラーメン屋のおじさんが、 他のお客さんと同じように、ちゃんと対応してくれて、 たけしくんは安心だね。 さて、自慢のラーメンが運ばれてきましたよ。」</p> <p>一杯のラーメンがドンとぼくの前に置かれました。</p>
<p>かみしばい <紙芝居⑨></p> 	<p>お母さんは、さてどうしようかと迷いましたが、 麺を取り出し、小さく切るために、 フーフーと麺を冷まし始めました。 あわてて取り皿を持ってきてくれたおじさんは 「う～ん」とうなりました。 そして、どうして麺を刻むのか、お母さんに尋ねました。</p> <p>「ラーメンを食べるのが、そんなに大変だったのか」 おじさんはしばらくテーブルを見つめていましたが、 「すみません。もう一回作り直させて下さい」と言うと 調理場に戻っていきました。</p>
<p>かみしばい <紙芝居⑩></p> 	<p>そして数分たった後、 おじさんは「はい！ラーメン一丁」と言って、 ぼくの前に新しいラーメンを置いたのです。</p> <p>そのラーメンは、麺がハンバーグよりも細かく刻んであって、 スープにはとろみがついているのです。 チャーシューもメンマも、 とても細かく刻まれて、まとめられています。 そして熱過ぎず、冷め過ぎず、食べ頃の温度です。</p>
<p>かみしばいし <紙芝居師></p>	<p>おじさんはぼくの間を見て 「当店自慢のラーメンです」と胸を張ったのです。</p>
<p>かみしばい <紙芝居⑩></p> 	<p>そのラーメンは、どれほどおいしかったことか。 ぼくが生まれて初めて食べたラーメンです。 なぜ、ぼくは生まれてから10年もの間、 このことを知らなかったんだろう。 ぼくは夢のようなラーメンを お母さんの介助で全部食べることができました。</p>

まるごと市政「障害者差別解消法」
台詞・ナレーション

<p>かみしばい ＜紙芝居⑪＞</p> 	<p>ぼくが食べ終わったその瞬間、 「はい！もう1名様分お待ちどうぞ」と、 おじさんの威勢のいい声が響き、 湯気の立つできたてのラーメンが お母さんの前にポンッと置かれたのです。 「閉店時間は気にせず、ゆっくりと食べて下さいな」と おじさんは言いました。 お母さんは熱々のラーメンを、 ぼくと同じように夢のような気持ちで食べたのです。</p>
<p>かみしばいし ＜紙芝居師＞</p>	<p>誰もいなくなった店のレジに向かうとおじさんは 「ありがとうございます。 ラーメン2名様分のお代をいただきます」と、 なんだかとても満足そうにしています。 お母さんが代金を支払うと、おじさんは深々とおじぎをし、 「今度、来られた時には、この段差はなくなってますよ。 ぜひ、またお越し下さい」と言ったのです。</p>
<p>かみしばい ＜紙芝居⑫＞</p> 	<p>ぼくはこの時、なんだか生きてきて、 本当に良かったと思えて、うれしくて、うれしくて、 ぼくは言葉は話せないけど、 それでも心のエネルギーのすべてを懸けて、ビビッと、 ありがとうの電波を送ったのです。</p>
<p>かみしばいし ＜紙芝居師＞</p>	<p>「その電波は、おじさんの心にすぐに届きましたよ」</p>
<p>かみしばい ＜紙芝居⑬＞</p> 	<p>『ラーメン屋をやってきて本当によかった』と おじさんは、なんだか生きていることが とても幸せな気持ちになって、 一人でガッツポーズをとっていたのですよ。 たけしくんも、お母さんも、そしてラーメン屋のおじさんも みんな幸せな気持ちになったんだね。 外に出ると、雨はすっかりあがって、おひさまが出ていました。 なんと！空には虹が架かっているではありませんか！ ぼくの顔にぽたぽた落ちてきたのは、お母さんの涙でした。</p>

<p>◆イメージ映像◆ ・青葉園 ・清水さんの青葉園での様子</p>	<p>「たけしくんがラーメンを好きになったわけ」の作者は 「青葉園」などで、障害のある人の支援に取り組んできた、 現在、西宮市社会福祉協議会常務理事の清水明彦さん。 清水さんに、物語に込めた思いをうかがいました。</p>
<p>◆インタビュー映像◆ ～清水さんインタビュー～</p>	<p>Q：協議会で紙芝居を作った経緯は？ A：子供が心を動かしながら次の社会を作っていくのだから、 それなら紙芝居にしようという話になった。 人の存在の値打ちというのは、順位があるわけではない。 どんなに障害が重くて言葉がしゃべれなくても みんな一生懸命生きている。 そのことにものすごい値打ちがある。 子供の直感で感じてほしかった。</p> <p>Q：共生のまちづくりのこれからは？ A：(障害者)差別解消法をひとつのジャンプ台にして、 一人ひとりの存在を大切にしたい 互いに値打ちを発揮できる(まちづくりを) 西宮のまちこそ本気で進めていける。 自分の経験から私は言い切れる。</p>
<p><紙芝居③></p> 	<p>たけしくんがラーメンを好きになったわけ、 みんな、分かったよね。</p>
<p><紙芝居師></p>	<p>「たけしくんはこのことがあってから、 もっといろんなところへ出かけて行って、 みんなでいっしょに暮していく西宮のまちづくりを 進めていますよ。なんだか、たけしくんかっこいいね」</p>
<p><紙芝居①></p> 	<p>障害者差別解消法。 それは、たけしくんのように障害がある人も、 そして障害がない人も、お互いにその人らしさを認め合って、 ともに支えて生きていく社会をつくるための法律なんです。 今回の「まるごと市政」は、これでおしまいです。</p>